第6節　弥生時代中期の遺構と遺物

1　SH1の概要

ＳＨ１は弥生時代中期後半の住居址である。表土の除去作業を行っていたおり、Ⅲ層(アカホヤ)の上面がややくすんだ色合いの部分があった。鍬で精査すると下城式土器の刻み目突帯文甕の破片が出土した。アカホヤに弥生時代中期の土器が含まれることはありえないので更に精査を続けると、円形を基調とした竪穴住居址の外形線が検出された。

竪穴住居址の内部を掘り進める段階で、周囲の縄文時代早期の包含層から流れ込んだ礫・焼礫・石器類がかなり出土した。埋設土の中位付近から弥生時代の土器・石器が多く出始めた。この段階で出土し始めた石器は弥生時代の磨製石鏃の製作に関連するスレート（粘板岩）の未成品・剥片・砕片であった(第41図)。これらのスレート片は住居址底部で特に多く、容易に掘り進めない密集状況であった。また住居址の中央部には楕円形炉址が現れた。周囲には須玖Ⅱ式風の高坏や甕が出土している。

ほぼ円形であるが、長い部分で直径730cm、短い部分で直径660cm、深さ55cmの規模を有する。楕円形の炉址は長軸を東西に向け、長軸105cm、短軸88cm、深さ18cmの規模を有する。この炉址を取り巻くように周囲の壁から約100～150cmの位置に直径30cm、深さ35cm前後の柱穴が6穴ある。あたかも六角形を呈している。この柱穴を境界に外帯と内帯に分けられる。

2　SH1の遺物出土状況

スレートを石材とする未成品・剥片・砕片はカウントしたもので約1,300点ある。これらの遺物は分布図中では赤色のドットで示している(第41図)。これをみると住居址の全体に分布しているが、柱穴より外側の外帯に遺物が少なく、柱穴より内側の内帯に遺物の多いことが一目瞭然である。また内帯・外帯の分布域においても特に集中する部分とそうでない部分がある。内帯では炉址の周辺から西側にかけて特に集中する部分が三箇所程度ある。しかもそれらは概ね三角形の台石・配石を挟むように集中する。台石・配石の北側と西側に遺物の分布がやや疎らな部分があるが、工人が位置していた場所である可能性は高い。最も北側にある柱穴の脇にも石皿が位置し、作業空間であった可能性がある。三角形の台石の南に隣接するように須玖Ⅱ式と推定する高坏の大破片があるが、残りの破片が見つかっていないことと、住居址の右半部を中心に分布する壺や甕も小破片であることから廃棄に伴う土器と推定する。

3　SH1の遺物(土器)

壺Ａ　胴部が張り、底部及び頸部で締まる(第42図215)。おそらく口頸部が短い短頸壺と推定される。法量は器高25cm、口径幅７cm、の法量を有する小形の壺。

壺Ｂ　おそらく球形の胴部に重弧文を廻らした下城式土器の壺であろう(第42図216)。

壺Ｃ　鍛先口縁で胴部が張る壺である。また頸部と胴部に多条の突帯を廻らしており、小川原式土器と呼ばれるもの(第42図217～222,224)。

高坏　口縁端部がやや下がる鍛先口縁の高坏で、須玖Ⅱ式に連なるものであろう(第42図223)。

甕Ａ　口縁下に横走する二条の刻目突帯間を垂下する二条の刻目突帯で繋いだ甕(第42図225)。

甕Ｂ１　口縁部付近で軽く外反するが、やや外傾する二条刻目突帯で下城式土器の甕(第42図226～229)。

甕Ｂ２　口縁部付近で軽く内湾しつつ口縁部が直口する一条刻目突帯で下城式土器の甕(第42図230～231)。

甕Ｃ　頸部付近で軽く内湾しつつ口縁部が「く」の字状に屈折する甕(第42図232)。

底部　甕の底部で、下城式土器の甕底部と考えるが、底部がやや浅い(第42図233,234)。

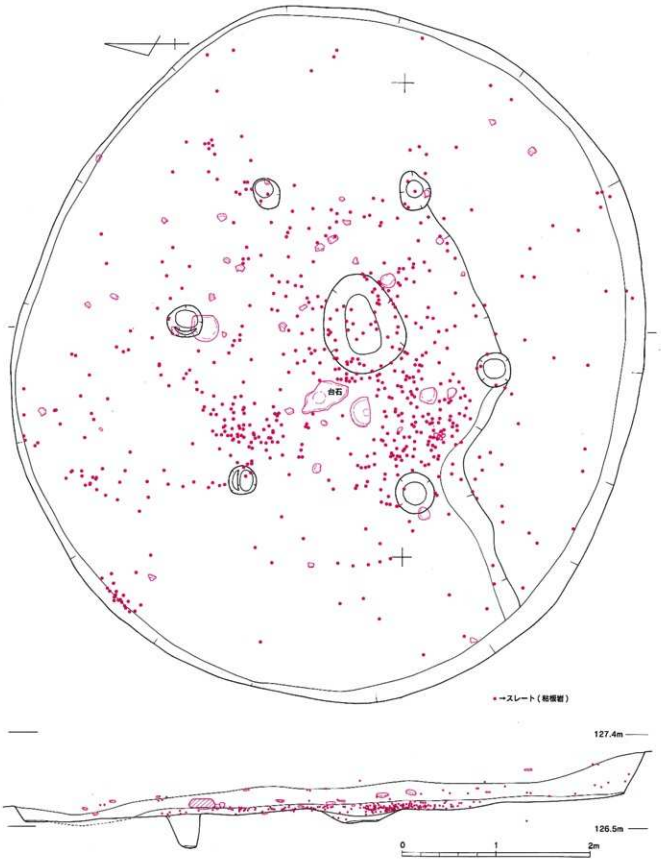
4　SH1の遺物(石器)

磨製石鏃(細形)　細長い例で全面斜方向の研磨が観察される(第43図235･239)。

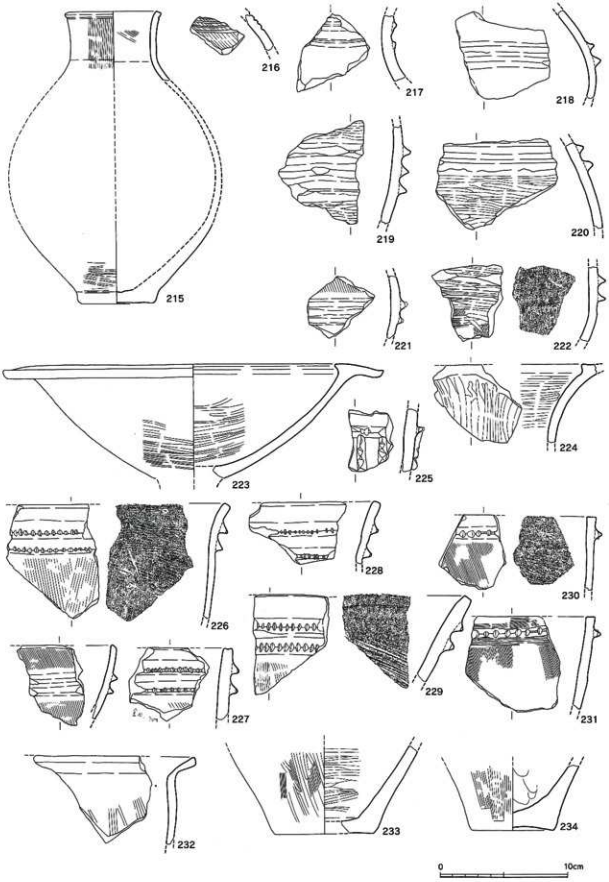
磨製石鏃(太形)　幅より僅かに全長が長い例で、全面斜方向の研磨が観察される(第43図236～238)。

磨製石鏃の未成品(細形)　細長い例で、研磨の直前に破損した例(第44図249)。

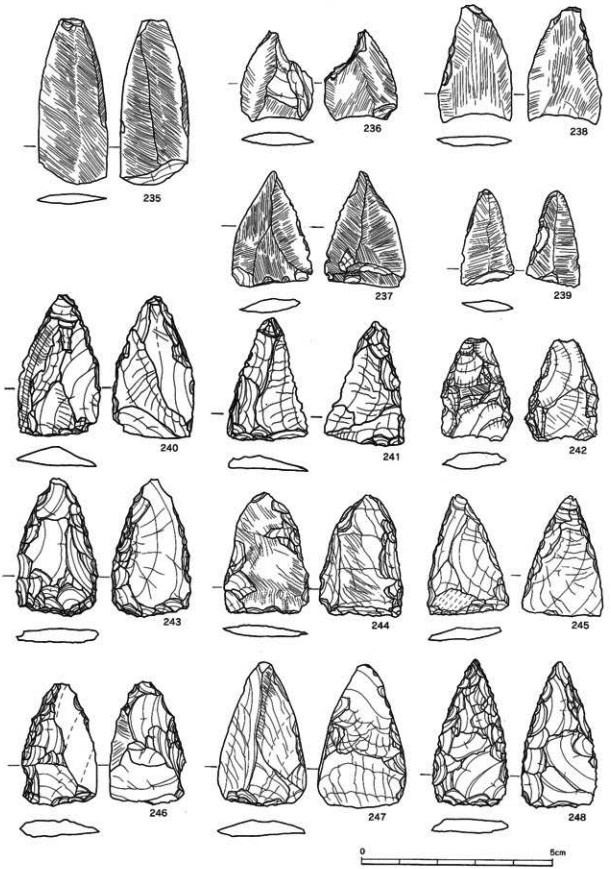
磨製石鏃の未成品(太形)　幅太い例で、全長が短い。全面に剥離痕が観察される例が多い(第43図240



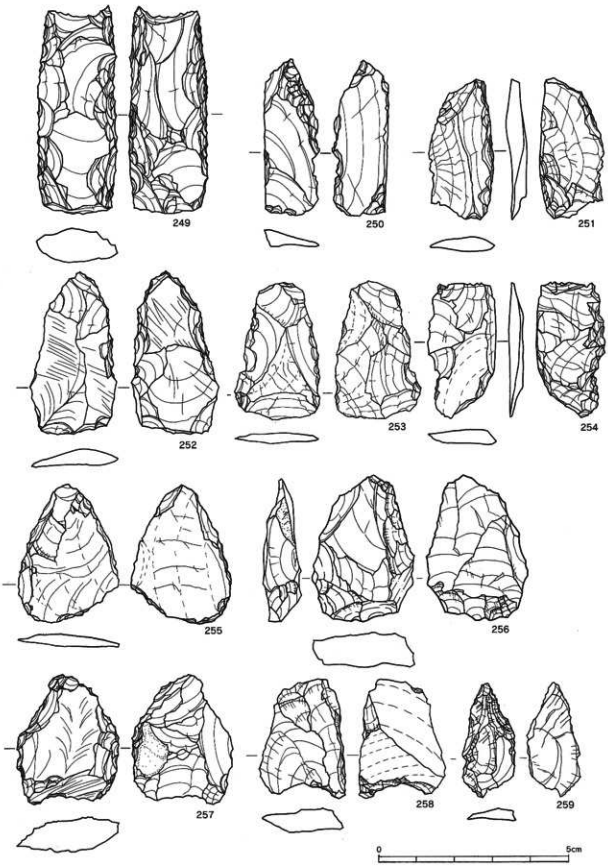
第41図　井ノ上 弥生中期SH１平断面実測図



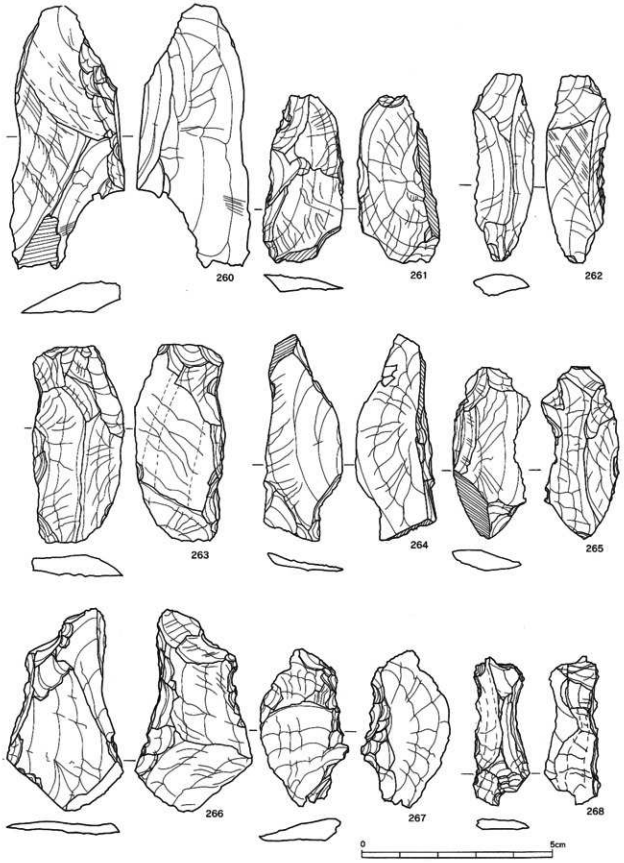
第42図　井ノ上 弥生中期遺物の実測図(1)



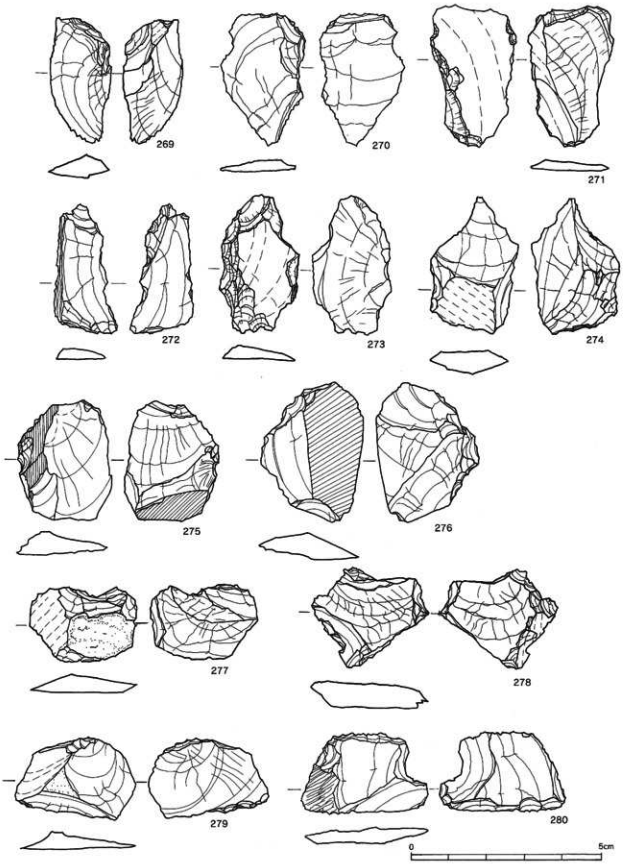
第43図　井ノ上 弥生中期遺物の実測図(2) －石材はスレート－



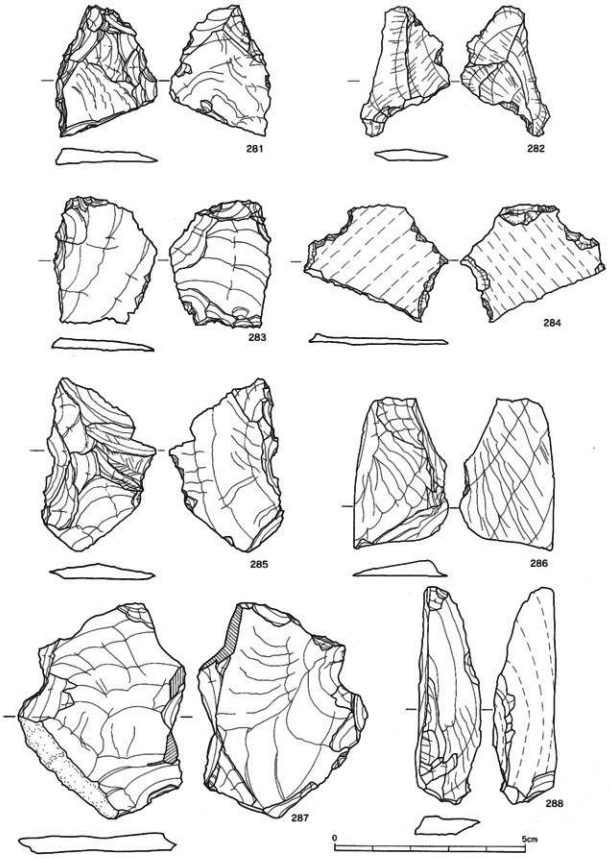
第44図　井ノ上 弥生中期遺物の実測図(3) －石材はスレート－



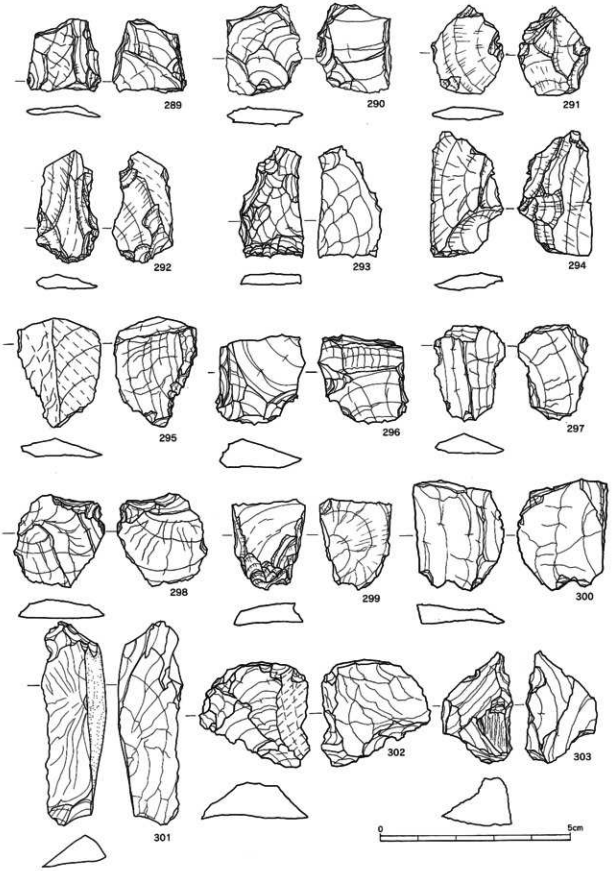
第45図　井ノ上 弥生中期遺物の実測図(4) －石材はスレート－



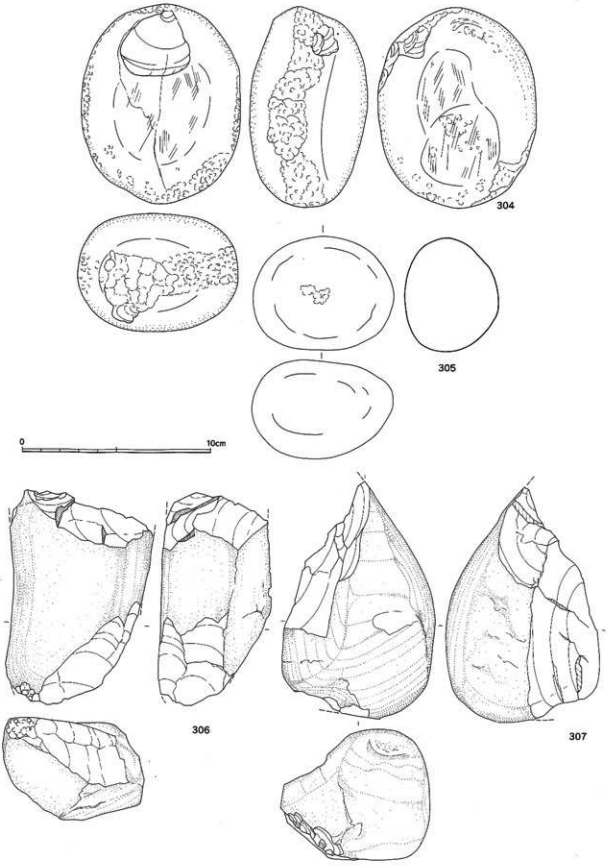
第46図　井ノ上 弥生中期遺物の実測図(5) －石材はスレート－



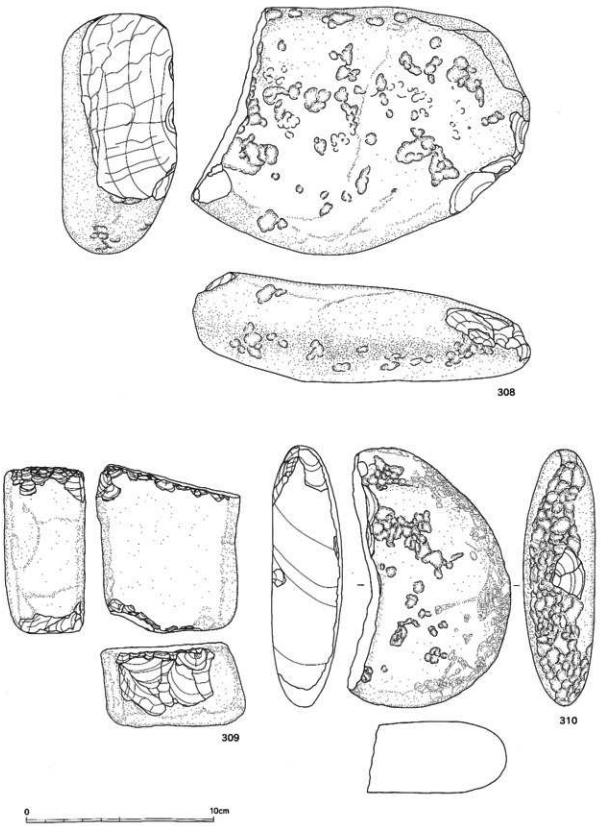
第47図　井ノ上弥生中期遺物の実測図(6) －石材はスレート－



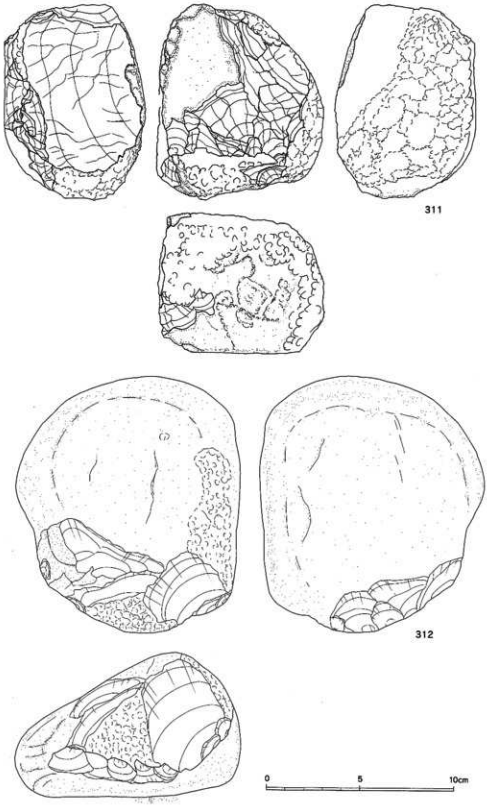
第48図　井ノ上弥生中期遺物の実測図(7) －石材はスレート－



第49図　井ノ上弥生中期遺物の実測図(8)



第50図　井ノ上弥生中期遺物の実測図(10)



第51図　井ノ上弥生中期遺物の実測図(11)

～248,第44図250～258)。このうち数例は研磨を開始した例(第43図242,244,246)。

磨製石鏃の素材　板状の石核から剥離された剥片で、ほとんど二次加工がなく、大きさから磨製石鏃の素材と考えられる例(第45図260～267,第47図288)。

その他　磨製石鏃の素材獲得にあたって剥離された剥片・チップ類と推定される例が非常に多い。図示した資料は大きいものを選んだが(第44図259,第45図268～第47図287,第48図289～303)、素材として明確でない例である。図示しなかった例の多くは微細なチップである。これらもそのほとんどがスレート（粘板岩）を石材としている。

敲石・台石類　ＳＨ１から敲石が多く出土しているが、周辺には縄文時代早期の包含層が広がっており、明確な区分はできない。しかし磨製石鏃の作成に当たっては敲石を用いた剥片の剥離や石核を固定する台石が必要だったと推定され(第49図304～第51図312)、縄文時代早期の遺物を転用した可能性が高い。

5　SH2の概要

ＳＨ２は弥生時代中期後半の住居址である。調査区の西端にあたるE10区で表土の除去作業を行っていたおり、Ⅲ層(アカホヤ)の上面で弥生土器出土し、精査したところ住居址の輪郭が現れた。方形の住居址と考えるが、調査区外に掛かっていることと、遺構の存在を察知するのが遅れ、重機で掘削してしまったこともあって規模は明確でない(第52図)。

遺物は土器の破片と石器が極少量が住居址内に散布していただけで、特別な出土遺物・分布状況はなかった。

6　SH2の遺物(土器・石器)

ＳＨ２の出土遺物はＳＨ１と同様であり、同じ分類で説明する。

甕B１　口縁部付近で軽く外反する二条刻目突帯で下城式土器の甕(第53図314)。

磨製石鏃の素材　板状の石核から剥離された剥片で、ほとんど二次加工がなく、大きさから磨製石鏃の素材と考えられる例(第53図313)。石材はスレートである。

第７節　その他の遺物

1　縄文時代後晩期の土器・弥生時代中期の土器

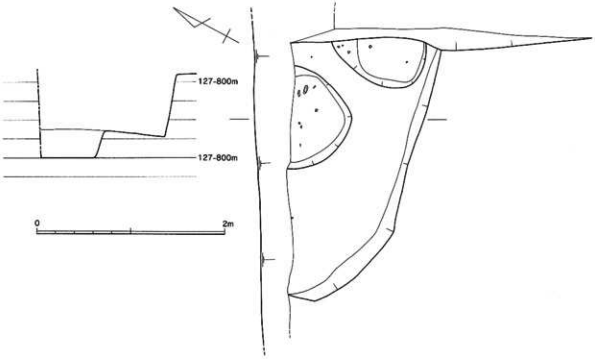
鉢A　胴部と頸部間に僅かに段を有し、頸部が外反する状況が窺える。胴部には水平方向と斜方向に条痕調整を区分するように施されている。縄文時代晩期の滋賀里系の鉢か(第53図318)。

鉢B　西平式土器前後に伴う素口縁の鉢で、器面を磨いている(第53図319)。　調査区内の縄文時代包含層において混入した弥生時代遺物がある。土器片をみるとＳＨ１で出土した土器大差ない。

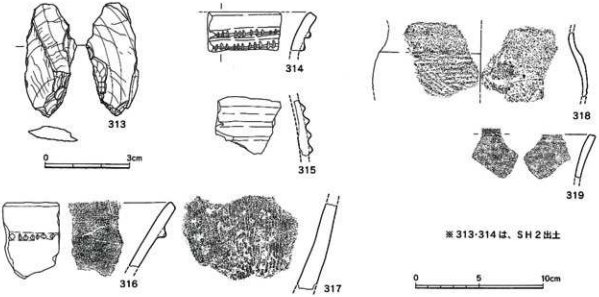
壺C　頸部と胴部に多状の突帯を廻らした小川原式土器と呼ばれるもの(第53図315)。

鉢　下城式土器の鉢(第53図316)。

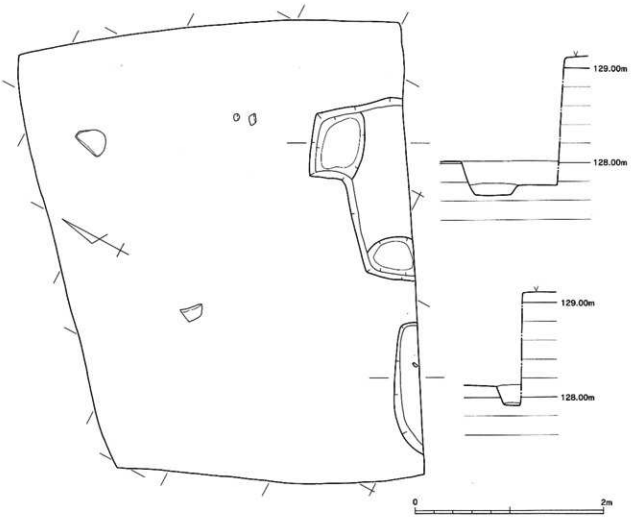
甕　下城式土器などの甕の破片であろう(第53図317)。



第52図　井ノ上弥生中期SH2平断面実測図



第53図　井ノ上 弥生中期SH2と周辺出土遺物実測図



第54図　井ノ上　試掘調査区実測図

遺物観察表　－土器－

挿図番号	出土区	遺物番号	種　類	備　考	
第6図1	B4	25	楕円押型文	田村式	
第6図2	C4	15	楕円押型文	田村式	Ⅳ層
第6図3	C5	269	楕円押型文	田村式	
第6図4	C4	5	楕円押型文	田村式	
第6図5	D3	4	楕円押型文	田村式	
第6図6	C6	15	楕円押型文	田村式	
第6図7	C3	2	楕円押型文	田村式	
第6図8			楕円押型文	田村式	
第6図9	C4	35,37	楕円押型文	田村式	Ⅴ層
第6図10	C4	109	楕円押型文	田村式	
第7図11	D7	1	楕円押型文	田村式	同一個体
第7図12	E7	82	楕円押型文	田村式	
第7図13 1	C4	22	楕円押型文	田村式	同一個体　Ⅳ層
第7図13 2	E5	21	楕円押型文	田村式	
第7図14 1			楕円押型文	田村式	同一個体
第7図14 2	E8	59	楕円押型文	田村式	
第7図15 1	D5	2	楕円押型文	田村式	同一個体
第7図15 2	E6	115	楕円押型文	田村式	
第7図16	C4	59,167	楕円押型文	田村式	同一個体
第7図17	C4	43,56,61	楕円押型文	田村式	
第7図18	C4	172	楕円押型文	田村式	
第7図19	C4	176	楕円押型文	田村式	
第7図20	C5	45	楕円押型文	田村式	Ⅴ層
第7図21	C4	108	楕円押型文	田村式	
第8図22	F9	27	楕円押型文	田村式	
第8図23	E4	52	楕円押型文	田村式	Ⅳ層
第8図24	C3	3	楕円押型文	田村式	
第8図25	E5	64	楕円押型文	田村式	
第8図26	E4	28	楕円押型文	田村式	Ⅳ層
第8図27	D4	32	楕円押型文	田村式	
第8図28	D3	10	楕円押型文	田村式	
第8図29	E9	39	楕円押型文	田村式	
第8図30	SK1	2	楕円押型文	田村式	
第8図31	C4	170	楕円押型文	田村式	
第8図32	C4	44	楕円押型文	田村式	Ⅴ層
第8図33	C4	166	楕円押型文	田村式	
第8図34	E7	73	楕円押型文	田村式	
第8図35	C4	92	楕円押型文	田村式	Ⅴ層
第8図36	C4	107	楕円押型文	田村式	
第8図37	E7	64	楕円押型文	田村式	
第8図38	F6	82	楕円押型文	田村式	
第8図39	D8	7	楕円押型文	田村式	
第8図40	B4	7	楕円押型文	田村式	
第8図41	F7	13	楕円押型文	田村式	
第8図42	D5	18	楕円押型文	田村式	
第8図43	表面		楕円押型文	田村式	
第8図44	E6	4	楕円押型文	田村式	
第8図45	C4	110	楕円押型文	田村式	
第8図46	E9	26	楕円押型文	田村式	
第8図47	E5	125	楕円押型文	田村式	
第8図48	F5	45	楕円押型文	田村式	F6-90と接合
第9図49	C5	7	楕円押型文	田村式	Ⅳ層
第9図50	E5	62	楕円押型文		
第9図51	E8	82	楕円押型文		
第9図52	C5	273	楕円押型文		
第9図53	C5	332	山形押型文	早水台系	横状文
第9図54	G7	14	山形押型文	早水台系	横状文
第9図55	E6	3	山形押型文	早水台系	横状文
第9図56	C5	426	山形押型文		
第9図57	C6	8	山形押型文		
第9図58	D4	60	山形押型文		Ⅳ層

挿図番号	出土区	遺物番号	種　類	備　考	
第９図59	Ｅ８	25	山形押型文		
第９図60	Ｄ７	8	山形押型文		
第９図61	ＳＨ１	885	山形押型文		
第９図62	表面		山形押型文		
第９図63	Ｅ８	78	山形押型文		
第９図64	Ｃ４	146	山形押型文		
第９図65	Ｄ５	180	山形押型文		
第９図66	Ｄ５	85	山形押型文		
第９図67	Ｃ５	406	山形押型文		
第９図68	Ｄ５	133	山形押型文		
第９図69	Ｄ５	163	山形押型文		
第９図70	Ｅ５	6	山形押型文		Ⅳ層
第９図71	Ｅ７	48	山形押型文		E8 - 65と接合
第９図72	表面		山形押型文		
第９図73	Ｇ８	23	山形押型文		
第９図74	Ｂ４	15,16	山形押型文		
第９図75	ＳＨ１	219	山形押型文	早水台系	
第９図76	Ｃ５	135	山形押型文		Ⅴ層
第９図77	Ｅ５	137	山形押型文	早水台系	
第10図78	Ｇ８	75	山形押型文		
第10図79	Ｅ８	55	山形押型文	稲荷山系？	同一個体
第10図80	Ｅ８	2	山形押型文	稲荷山系？	
第10図81	Ｅ８	28	山形押型文	稲荷山系？	
第10図82	Ｇ９	3	山形押型文		
第10図83	ＳＨ１	230	山形押型文		
第10図84	Ｅ８	45	山形押型文		
第10図85	Ｃ５	400	山形押型文	縦方向	下宮生Ｂ式以降
第10図86	Ｃ５	127,337	山形押型文	縦方向	下宮生Ｂ式以降
第10図87	Ｃ６	37	山形押型文	縦方向	下宮生Ｂ式以降
第10図88	Ｃ５	367	山形押型文	縦方向	下宮生Ｂ式以降
第10図89	Ｃ４	123	撚糸文		
第10図90	Ｈ７	2	撚糸文		
第10図91	Ｅ４		押型文土器か		Ⅳ層、早水台系、底部か
第10図92	Ｅ７	40～43	無紋	ナデ	
第10図93	Ｅ３	3	無紋	ナデ	
第10図94	Ｇ９	16	無紋	ナデ	内面にヘラによる櫛状文か
第10図95	Ｅ８	19	無紋	ナデ	
第10図96	Ｄ５	60	無紋	ナデ	
第10図97	Ｆ９	18	無紋	条痕	
第10図98	Ｆ６	42	無紋		
第10図99	Ｆ６	46	無紋		

遺物観察表　－石器類－

挿図番号	出土区	遺物番号	種　類	縦 (cm)	横 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石　材
第11図100	Ｅ４	33	トロトロ石器	1.90	1.65	0.5	1.23	チャート
第11図101	Ｅ４	64	石鏃	1.25	1.05	0.30	0.32	チャート
第11図102	Ｄ４	57	石鏃	2.10	1.50	0.30	0.57	チャート
第11図103	Ｃ４	14	石鏃	2.30	1.50	0.60	1.43	姫島産黒曜石
第11図104	Ｅ４	35	石鏃	1.60	1.25	0.25	0.36	サヌカイト
第11図105	Ｃ５	417	石鏃	1.70	1.50	0.35	0.57	姫島産黒曜石
第11図106	Ｃ４	195	石鏃	1.95	1.90	0.35	0.78	チャート
第11図107	ＳＨ１	139	石鏃	2.00	1.50	0.30	0.63	チャート
第11図108	Ｃ４	23	石鏃	1.80	2.15	0.30	0.82	チャート
第11図109	Ｃ５	264	石鏃	2.65	1.45	0.40	0.97	姫島産黒曜石
第11図110	Ｄ５	23	石鏃	2.35	2.30	0.40	1.29	チャート
第11図111	Ｅ２	2	石鏃	2.35	2.05	0.40	1.30	チャート
第11図112	Ｅ４	37	石鏃	2.65	1.30	0.40	1.42	チャート
第11図113	Ｃ４	121	石鏃	2.65	2.00	0.50	1.81	姫島産黒曜石
第11図114	Ｆ４	69	石鏃	2.65	2.35	0.40	1.05	
第11図115	Ｄ５	38	石鏃	2.65	2.25	0.55	1.86	チャート
第12図116	Ｅ６	53	石鏃	3.30	1.70	0.80	4.33	チャート
第12図117	Ｂ４	29	石鏃	2.50	2.10	0.85	3.24	チャート
第12図118	Ｃ４	197	石鏃	2.60	2.35	0.85	4.25	チャート

挿図番号	出土区	遺物番号	種　類	縦(cm)	横(cm)	厚(cm)	重(g)	石　材
第12図119	E６	58		2.45	2.55	0.95	4.63	チャート
第12図120	E９	6	石鏃	2.30	2.20	0.90	3.69	チャート
第12図121	F７	11	石鏃	2.20	3.00	0.80	4.56	チャート
第12図122	G１８	18	石鏃	2.20	2.05	0.80	2.61	姫島産黒曜石
第12図123	E８	14	石鏃	2.90	3.05	0.80	7.41	チャート
第12図124	C５	358	石鏃	3.20	2.95	0.90	7.65	チャート
第12図125	C５	292	石鏃	1.80	1.90	0.60	1.71	チャート
第13図126	D５	143	石槍	4.60	2.20	0.90	7.33	サヌカイト
第13図127	C６	35	石鏃	2.80	2.25	1.05	5.35	チャート
第13図128	E５	128	スクレイパー	3.00	1.70	0.65	3.27	緑質貢岩
第13図129	F７	50	スクレイパー	5.85	3.20	1.40	16.30	姫島産黒曜石
第13図130	F６	4	スクレイパー	3.45	2.65	1.30	13.10	チャート
第13図131	E７	41	RF	5.60	4.05	1.60	39.62	チャート
第13図132	F６	77	石錐	3.65	2.70	1.15	8.12	チャート
第14図133	E５	80	スクレイパー	5.10	4.20	1.70	35.45	チャート
第14図134	B３	1	クサビ形				6.74	チャート
第14図135	E４	9	楔形石器未成品	3.70	3.40	1.50	8.35	チャート
第14図136	E５	77	クサビ形	3.65	2.20	1.00	9.38	チャート
第14図137	F６	29	スクレイパー	4.00	5.40	0.80	13.51	サヌカイト
第14図138	D３	9	クサビ形	3.85	1.65	0.90	4.74	姫島産黒曜石
第14図139	E４	68	クサビ形	3.60	2.75	1.10	9.66	チャート
第14図140	E７	68	クサビ形	3.30	2.40	1.20	9.95	チャート
第15図141	H６	3	RF	2.80	2.60	0.90	6.20	チャート
第15図142	E２	5	RF	3.50	2.70	0.70	6.67	腰岳産黒曜石
第15図143	F６	88	剥片	3.60	5.40	1.20	14.36	姫島産黒曜石
第15図144	G７	62	RF	3.25	2.55	0.90	7.93	姫島産黒曜石
第15図145	E４	39	石鏃未成品	3.40	2.05	0.80	4.46	
第15図146	E７	74	UF	3.90	1.95	0.60	2.30	サヌカイト
第15図147	D４	20	石核	3.20	1.75	1.30	6.86	姫島産黒曜石
第16図148	SH－１	113	敲石	6.75	5.70	4.15	217.5	チャート
第16図149	SH－１	287	敲石	6.7	5.5	5.2	190.7	砂岩
第16図150	SH－１	188	敲石	5.7	5.0	3.3	124	砂岩
第16図151	SH－１	647	敲石	6.9	3.90	4.1	131.1	砂岩
第16図152	SH－１	285	敲石	7.4	3.55	3.7	116.8	砂岩
第17図153	C５	76	台石	23.8	19.3	8.3	5110	砂岩
第18図154	C５	131	台石	23.0	19.7	8.4	4600	砂岩
第18図155	E７	31	台石	17.3	17.3	9.6	3500	花崗岩
第19図156	E１０	4	敲石	9.3	7.5	6.1	700	
第19図157	E１０	2	敲石	11.9	12.9	7.7	145	
第20図158	C５	296	敲石	14.6	7.6	7.4	1750	砂岩
第20図159	G８	47	敲石	16.1	7.9	3.3	655	
第20図160	E５	94	敲石	7.25	4.9	2.5	117.2	
第20図161	F７	53	敲石	8.10	4.9	3.75	201	砂岩
第21図162	C５	174	敲石	12.3	4.9	2.9	312	砂岩
第21図163	E７	76	敲石	8.4	4.9	4.5	266.5	砂岩
第21図164	試掘区	3	敲石	8.9	7.9	5.4	444.5	角閃石安山岩
第21図165	G８	24	敲石	11.7	9.4	7.2	1005.0	砂岩
第21図166	D４	42	敲石	10.8	7.8	5.5	620.25	砂岩
第22図167	E４	61	磨石	11.4	8.3	4.5	760	硬砂岩
第22図168	E８	11	敲石	12.1	8.8	6.3	900	砂岩
第22図169	C４	177	敲石	10.8	7.2	6.8	700	
第23図170	B４	35	敲石	10.2	5.9	3.6	314	砂岩
第23図171	H８	9	敲石（凹石）	8.5	7.0	4.3	332.5	砂岩
第23図172	D４	72	敲石（凹石）	9.1	6.3	4.0	314.5	砂岩
第23図173	E５	66	敲石	11.0	8.7	5.1	700	砂岩
第24図174	D８	4	敲石	8.7	4.8	4.2	210	
第24図175	SH１	475	敲石	8.1	7.0	5.2	298.7	
第24図176	B４	33	敲石	18.6	6.4	6.9	1154.1	
第24図177	H６	2	敲石	8.5	6.35	6.4	480.0	砂岩
第25図178	E４	27	石核	3.0	4.1	2.55	19.51	チャート
第25図179	E９	47	石核	6.4	3.7	2.7	55.44	チャート
第25図180	D５	139	石核	2.7	7.8	54.5	54.5	チャート
第26図181	SH１	305	碑器	19.55	11.6	8.0	2300	角閃石安山岩

挿図番号	出土区	遺物番号	種　類	縦(cm)	横(cm)	厚(cm)	重(g)	石　材
第26図182	SH1	405	礫器	12.1	6.8	5.3	545.5	砂岩
第26図183	SH1	399	礫器	3.9	3.1	2.1	33.69	チャート
第27図184	D5	122	礫器	13.6	14.75	6.6	1350	角閃石安山岩
第27図185	G7	44	礫器	7.3	9.5	4.15	350	砂岩
第27図186	C5	71	礫器	12.45	6.0	5.3	487.5	角閃石安山岩
第28図187	C7	1	礫器	13.2	14.65	6.3	1610	
第28図188	E4	44	礫器	10.4	14.6	5.5	1120	砂岩
第29図189	G8	70	礫器	14.4	15.6	6.0	1419.04	
第29図190	D5	150	礫器	10.2	12.1	4.9	750	
第30図191	E4	112	礫器	14.8	13.6	4.0	988.12	
第30図192	G6	12	礫器	11.4	11.2	6.0	987.5	石英粗面岩
第31図193	F7	52	礫器	14.0	10.6	6.0	1290	砂岩
第31図194	E9	17	礫器	9.6	8.75	4.2	371.5	角閃石安山岩
第31図195	E8	21	礫器	12.1	10.15	3.7	523	安山岩
第32図196	G7	63	礫器	12.1	10.0	5.1	888.95	
第32図197	D4	96	礫器	20.0	14.1	6.7	2120	
第33図198	E5	20	礫器	13.2	10.3	5.3	722.9	
第33図199	C6	20	礫器	16.6	9.1	6.85	1352.5	角閃石安山岩
第34図200	B4	8	礫器	13.3	9.3	4.65	513	砂岩
第34図201	D8	11	礫器	9.5	7.9	2.7	300.5	角閃石安山岩
第34図202	G7	33	礫器	14.95	7.8	4.2	580	角閃石安山岩
第34図203	E4	55	礫器	9.15	6.7	2.5	139.31	砂岩
第35図204	G6	11	礫器	19.7	10.50	5.8	1745	角閃石安山岩
第35図205	E7	38	礫器	14.4	12.1	6.2	1010	角閃石安山岩
第36図206	E5	141	礫器	10.6	10.4	5.75	720	角閃石安山岩
第36図207	G8	38	礫器	17.0	12.85	8.8	1932.72	
第37図208	G8	50	礫器	17.0	18.45		2470	
第37図209	D5	17	礫器	12.8	9.6	6.9	920.5	角閃石安山岩
第38図210	C5	287	礫器	19.5	13.2	7.2	1790	角閃石安山岩
第38図211	G7	25	石核	8.2	12.25	8.05	830	チャート
第39図212	B4	13	剥片	6.4	4.25	1.6	32.09	安山岩
第39図213	表採		石鏃素材	7.85	4.85	0.65	19.82	粘板岩
第40図214	E8	32						粘板岩

遺物観察表　－土器－

挿図番号	出土区	遺物番号	種　類	備　考	
第42図215	SH1	475	短頸壺		
第42図216	SH1	148	壺		頸部沈線
第42図217	SH1	48	壺		頸部突帯
第42図218	SH1	340	壺		胴部２条突帯
第42図219	SH1	88	壺		胴部３条突帯
第42図220	SH1	320	壺		胴部２条突帯
第42図221	SH1	554	壺		胴部２条突帯
第42図222	SH1	591	壺		胴部２条突帯
第42図223	SH1	196	高坏	須玖Ⅱ式	
第42図224	SH1	499	壺？	須玖Ⅱ式	
第42図225	SH1	313	甕		
第42図226	SH1	256	甕	下城系	２条突帯
第42図227	SH1	303	甕	下城系	２条突帯
第42図228	SH1	272	甕	下城系	２条突帯
第42図229	SH1	33	甕	下城系	２条突帯
第42図230	SH1	205	甕	下城系	１条突帯
第42図231	SH1	179	甕	下城系	１条突帯
第42図232	SH1	553	甕		
第42図233	SH1	205	甕		
第42図234	SH1	310	甕		

遺物観察表　－石器類－

挿図番号	出土区	遺物番号	種類	縦(cm)	横(cm)	厚(cm)	重(g)	石　材
第43図235	SH1	333	磨製石鏃	4.35	1.80	0.30	2.78	スレート
第43図236	SH1	293	磨製石鏃	2.35	1.90	0.35	1.65	スレート
第43図237	SH1	897	磨製石鏃	3.05	2.10	0.45	2.44	スレート
第43図238	SH1	281	磨製石鏃	3.15	2.90	0.30	2.17	スレート

挿図番号	出土区	遺物番号	種類	縦 (cm)	横 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石　材
第43図 239	SH1	531	磨製石鏃	2.75	1.40	0.30	2.15	スレート
第43図 240	SH1	10	同未成品	3.80	2.25	0.65	4.95	スレート
第43図 241	SH1	1312	同未成品	3.25	2.10	0.40	2.29	スレート
第43図 242	SH1	416	同未成品	2.75	1.95	0.50	2.15	スレート
第43図 243	SH1	892	同未成品	3.15	2.15	0.40	3.49	スレート
第43図 244	SH1	252	同未成品	3.15	2.20	0.40	3.52	スレート
第43図 245	SH1	294	同未成品	3.15	2.15	0.50	2.88	スレート
第43図 246	SH1	0	同未成品	3.25	2.00	0.50	2.92	スレート
第43図 247	SH1	801	同未成品	3.75	2.30	0.60	4.44	スレート
第43図 248	SH1	101	同未成品	3.90	2.00	0.45	3.35	スレート
第44図 249	SH1	336	同未成品	5.50	2.05	0.95	13.61	スレート
第44図 250	SH1	115	同未成品	4.10	1.50	0.50	2.65	スレート
第44図 251	SH1	172	同未成品	3.70	1.70	0.55	2.93	スレート
第44図 252	SH1	133	同未成品	4.30	2.30	0.45	5.23	スレート
第44図 253	SH1	65	同未成品	3.65	2.25	0.40	2.94	チャート
第44図 254	SH1	197	同未成品	3.50	1.85	0.45	2.53	スレート
第44図 255	SH1	280	同未成品	3.65	2.65	0.55	4.44	スレート
第44図 256	SH1	852	同未成品	3.80	2.70	0.90	10.16	チャート
第44図 257	SH1	234	同未成品	3.40	2.70	1.00	8.04	スレート
第44図 258	SH1	209	同未成品	2.10	2.35	1.20	4.61	スレート
第44図 259	SH1	871	同未成品	3.00	1.45	0.50	1.62	スレート
第45図 260	SH1	293	同素材・剥片	6.50	3.00	0.90	11.30	スレート
第45図 261	SH1	203	同素材・剥片	4.50	2.20	0.55	5.20	スレート
第45図 262	SH1	154	同素材・剥片	4.95	1.65	0.65	4.62	スレート
第45図 263	SH1	61	同素材・剥片	5.20	2.40	0.60	10.16	スレート
第45図 264	SH1	1235	同素材・剥片	5.45	2.10	0.65	5.26	スレート
第45図 265	SH1	560	同素材・剥片	4.50	2.05	0.55	4.31	スレート
第45図 266	SH1	880	同素材・剥片	5.35	3.05	0.50	6.94	スレート
第45図 267	SH1	19	同素材・剥片	4.20	2.35	0.70	4.07	スレート
第45図 268	SH1	1199	同素材・剥片	3.90	1.50	0.35	1.95	
第46図 269	SH1	25	同素材・剥片	3.30	1.60	0.55	1.93	スレート
第46図 270	SH1	412	同素材・剥片	3.50	2.25	0.35	2.36	スレート
第46図 271	SH1	442	同素材・剥片	3.80	2.30	0.30	2.61	スレート
第46図 272	SH1	111	同素材・剥片	3.45	1.70	0.30	1.62	スレート
第46図 273	SH1	440	同素材・剥片	3.70	2.10	0.40	2.65	スレート
第46図 274	SH1	630	同素材・剥片	3.65	2.35	0.65	3.85	スレート
第46図 275	SH1	144	同素材・剥片	3.20	2.45	0.80	5.70	スレート
第46図 276	SH1	1308	同素材・剥片	4.00	2.80	1.00	6.42	スレート
第46図 277	SH1	209	同素材・剥片	3.90	1.50	0.35	1.95	スレート
第46図 278	SH1	438	同素材・剥片	2.65	3.10	0.65	4.81	スレート
第46図 279	SH1	558	同素材・剥片	2.20	3.15	0.60	2.63	スレート
第46図 280	SH1	364	同素材・剥片	2.10	3.30	0.50	2.93	スレート
第47図 281	SH1	301	同素材・剥片	3.50	2.60	0.45	3.07	スレート
第47図 282	SH1	288	同素材・剥片	3.50	2.35	0.45	1.89	スレート
第47図 283	SH1	342	同素材・剥片	3.35	2.70	0.30	2.87	スレート
第47図 284	SH1	175	同素材・剥片	3.10	3.85	0.35	2.46	スレート
第47図 285	SH1	806	同素材・剥片	4.60	3.00	0.40	3.45	スレート
第47図 286	SH1	1310	同素材・剥片	5.45	2.10	0.65	5.26	スレート
第47図 287	SH1	371	同素材・剥片	5.70	4.45	0.90	16.57	スレート
第47図 288	G7	21	同素材・剥片	5.65	1.70	0.55	5.42	スレート
第48図 289	SH1	691	同素材・剥片	1.95	1.95	0.30	1.12	スレート
第48図 290	SH1	872	同素材・剥片	2.95	1.70	0.40	1.67	スレート
第48図 291	SH1	0	同素材・剥片	2.40	2.00	0.45	1.95	スレート
第48図 292	SH1	876	同素材・剥片	2.95	1.70	0.50	1.95	スレート
第48図 293	SH1	216	同素材・剥片	2.95	1.70	0.40	1.67	サヌカイト
第48図 294	SH1	824	同素材・剥片	3.30	1.95	0.60	2.68	
第48図 295	SH1	312	同素材・剥片	2.80	2.20	0.60	2.57	サヌカイト
第48図 296	SH1	911	同素材・剥片	3.40	2.40	0.80	4.11	スレート
第48図 297	SH1	505	同素材・剥片	2.60	1.90	0.55	2.34	スレート
第48図 298	SH1	912	同素材・剥片	2.45	2.40	0.40	2.40	スレート
第48図 299	SH1	533	同素材・剥片	2.45	1.95	0.60	2.53	スレート
第48図 300	SH1	420	同素材・剥片	2.95	2.40	6.50	3.84	スレート
第48図 301	SH1	826	同素材・剥片	5.35	1.70	0.90	6.05	スレート

挿図番号	出土区	遺物番号	種類	縦(cm)	横(cm)	厚(cm)	重(g)	石　材
第48図302	ＳＨ１	91	同素素材・剥片	2.80	2.90	0.85	7.09	サヌカイト
第48図303	ＳＨ１	377	同素素材・剥片	3.00	1.85	1.25	5.47	スレート
第49図304	ＳＨ１	242	敲石・磨石	10.5		6.2	800	
第49図305	ＳＨ１	308	敲石	7.5	6.0	5.2	316	
第49図306	ＳＨ１	545	敲石	11.3	7.6	5.5	601.5	
第49図307	ＳＨ１	206	敲石	12.5	8.1	7.0	634	
第50図308	ＳＨ１	325	敲石	18.15	13.1	6.0	1730	砂岩
第50図309	ＳＨ１	307	敲石	8.75	7.6	4.4	545.5	砂岩
第50図310	ＳＨ１	6	敲石	13.8	8.65	3.7	563.0	角閃石安山岩
第51図311	ＳＨ１	406	敲石	8.95	10.3	7.3	915.5	砂岩
第51図312	ＳＨ１	69	敲石	13.6	11.9	7.7	1572.7	
第53図313	ＳＨ２	7	素材・剥片					スレート

遺物観察表　－土器－

挿図番号	出土区	遺物番号	種　類	備　　考	
第53図314	ＳＨ２	475	甕	下城系	２条突帯
第53図315	Ｄ５	138	壺		胴部４条突帯
第53図316	Ｇ９	11	甕		１条突帯
第53図317	Ｆ６	88	甕		
第53図318	Ｅ５	36	鉢	滋賀里系か	胴部外面条痕
第53図319	Ｏ	表面採取	深鉢	後期鉢？	内外ミガキ

第4章　総　括

第1節　縄文時代早期の土器

前章で既述したように井ノ上遺跡からは縄文時代早期の土器が数種類出土している。いまそれらを列記すると無紋土器と、押型文土器である稲荷山式土器、早水台式土器、下菅生B式土器、田村式土器に区分できる。既往の研究で押型文土器は稲荷山、早水台、下菅生B、田村の順に変遷することが知られている。そのほとんどが井ノ上遺跡で見られることになる、近年の研究では押型文土器を用いる以前に無紋尖底土器が位置づけられるという意見が有力となりつつある。この点については異論もあり、ここでは深く立ち入らない。

井ノ上遺跡の押型文土器で量的に主体を示すのは田村式土器の段階で、他は小量出ているにすぎない。稲荷山式の典型ではないが、押型文の痕跡が浅い山形文の例や、口縁部内面の橫状文がない口縁部破片にその可能性がある。

井ノ上遺跡の無紋土器には明らかに押型文土器以前の例が含まれている。それは1類とした土器であるが、尖底で上半部に最大幅があり、口縁部が内湾する点に最大の特徴がある。こうした器形は九重町二日市洞穴遺跡第6文化層や国東市陽弓遺跡に類例があり、押型文土器直前段階の土器として位置づけられる土器である。そのほかの無紋土器にしてもナデ調整の場合が多く、極端に古いものではないといえる。また無紋土器は押型文土器との量的比較でいえば、極少量である。

第2節　縄文時代早期の石器

井ノ上遺跡の石器には石鏃,石槍,楔形石器,石錐,スクレーパー,トロトロ石器,敲石,台石,凹石など生活に関わる多様な石器がまとまって出土した。これらを一瞥すると、狩猟具である石鏃・石槍、工具である,楔形石器,石錐,切削具であるスクレーパー、調理加工具である,敲石,台石,凹石など生活に必要な装備が整っていると見做せるだろう。また近年、精神的な器物であるという意見があるトロトロ石器も含まれていた。とりわけ脚端部が幅広い石鏃や石槍、楔形石器、トロトロ石器は縄文時代早期に特徴的な剥片石器である。

これらの剥片石器の素材は概ね不定形剥片を用いているが、こうした石器類に使われた石材をみると、サヌカイトが4点、チャートが36点、姫島産黒曜石が10点、硅質頁岩と推定腰岳産黒曜石が各1点である。注目されるのは地元産と推定されるチャートを石材とした例が多い。既往の研究からすれば、早水台式土器以降に姫島産黒曜石を石器の石材として多量に用いるようになる。したがって井ノ上遺跡に姫島産黒曜石が一定量含まれることの背景には高山寺系田村式土器以降の土器が一定量含まれることに関連するのだろう。いずれにしても井ノ上遺跡において古相の土器を含みながらも姫島産ガラス質安山岩を含まないことは、県南地域へ分布が及んでいなかったことを示すと推定している。

井ノ上遺跡の石器に関する今ひとつ重要な点は、礫器・剥石が多いことである。これらの礫器を観察すると平面的な刃部の出入りが多く、木の伐採を行った石斧のような機能を果たしたとも考えられない。また狩猟具や切削具の可能性も低いだろう。はっきりしているのは礫器が圧倒的な重量を有していることにあろう。県南地域では佐伯市森の木遺跡・佐伯市直川神ノ原遺跡でも多くの礫器が出土しており、このことと共通している。石器類の主体をなす礫器類が、この地域でも生業を営む局面において重要な道具であったことが推測される。

第3節　縄文時代早期の井ノ上遺跡

遺構については土坑二ケ所・集石一ヶ所が確認されているにすぎない。しかし集石用の石として別の場所で再利用するために集石が破壊されたと考えられ、大量の焼礫片が調査区に散在していた。こうした焼礫片の分布をみると、調査区外で上層の堆積が薄い畑内でも石器類とともに散在を観察することができ、生活活動が井ノ上遺跡の立地する河岸段丘全域に広がる傾向が窺える。ただ調査区内における唯一の集石は再利用がなされ

なかったことを意味し、あるいは井ノ上遺跡における縄文時代早期段階での生活の最終的状況を示しているのかもしれない。

この集石構築が土器・石器類と供に河岸段丘の広い範囲に分布する傾向があるものの、調査区内での石器・土器の量は、臼杵市野津町所在の菅牟田遺跡・新生遺跡における土器・石器の量と比較すると著しく少ない。とりわけ土器片の個体数は少なく、押型文土器については前章で図示したものがほとんどである。土器の分類からすると断続的にせよ長期にわたる遺跡での生活が窺えるが、土器・石器の量から推定する密度の濃い生活ではなかったのかもしれない。井ノ上遺跡は山深く狭小な谷間の小河岸段丘に立地した集落であり、容易に移動し、広範囲で食糧・物資を調達できる開放的な地形環境でないことはたしかである。この点で菅牟田遺跡など広大な台地に立地した遺跡と井ノ上遺跡を比較した場合、生活条件的には菅牟田が優位で、井ノ上が不利であったという理解になり、遺物量にそれが現れていると解釈したい。

第４節　弥生時代中期の石器

井ノ上遺跡SH１・２の土器は須玖Ⅱ式土器並行段階と押さえることができるが、重要なことは旧石器・縄文時代以来の系譜を引く打製剥片石器製作が既に廃れており、確実に弥生時代中期後半の打製石器と見なせる例は１点もなかった。井ノ上遺跡では打製剥片石器製作に代わって磨製石鏃の製作が行われていた。井ノ上遺跡における弥生時代中期の磨製石鏃が武器であったのか、狩猟具であったのか、両方を兼ねていたのか詳らかでない。しかし、はっきりしているのは至近に位置する蕃匠川の川原でスレート(粘板岩)を入手し、磨製石鏃を一貫製作していたことである。こうした集落単位での磨製石鏃製作は、なにも井ノ上遺跡だけの特徴ではなく、豊後大野市舞田原遺跡、同二本木遺跡でも見つかっている。少なくとも石製武器・狩猟具については自己集落での調達が基本であったことが窺える。

なお豊後大野市三重町に所在する惣田遺跡では弥生時代中期前半とされる土器とともに長さの短い太形の磨製と打製石鏃が土杭内から集中的に出土している。弥生時代後期になると細形の磨製石鏃が主流になることから、細形例を若干含む弥生時代中期後半の井ノ上遺跡例は、弥生時代後期的な様相を見せはじめているといえよう。

第５節　弥生時代中期の井ノ上遺跡

弥生時代は早期以来、本格的な水田農耕が行われた時代としてしられ、弥生時代中期の北部九州では首長権の存在を窺わせる青銅器が墓地の中から出土している。このような時代状況の中で、井ノ上遺跡の弥生時代集落はどのような性格を有した集落であったのであろうか。

既に繰り返し述べたように山深く狭小な谷間に北面する小河岸段丘に立地した集落であり、空を除き視界の大半が急傾斜な山地で占められている。井ノ上遺跡が立地する井ノ上地区は現在でも水田耕作地がほとんどない状況であり、弥生時代の井ノ上遺跡においての主要な生業として水田耕作を考える必要はないだろう。また山地斜面は50°前後の急斜面であり、焼畑の作業も難しいと想定される地形である。唯一水田農耕以外の耕作が可能な場所として考えられるのは、井ノ上遺跡が立地する河岸段丘にすぎない。これについても限定的な面積内での畑作利用であったと想定できる。生産力に関わる居住環境が必ずしも良好でなかったこともあるのか、井ノ上遺跡の調査面積中における住居址数も２棟に止まっている。調査区外への広がりも、弥生時代の遺物が表面採取されていないことから調査区内における遺構密度と同様であったと考えられる。

調査区における住居址の構成は、甲元真之がいう数棟に１棟の割合であるという大型住居址（甲元1985）１棟と、通常の中形住居址１棟からなり、両住居址は約17ｍの距離を置いて位置する関係にあるが、密集観はない。甲元によればこうした大型住居址は共同作業施設であるという。仮に大型住居址が共同作業施設であるとしても、井ノ上遺跡のSH１における磨製石鏃製作とどうかかわるのか、解釈に苦慮する部分である。集落の共同作業として磨製石鏃製作を行なったのだろうか。いずれにしても井ノ上遺跡全域を考慮にいれても、

大規模・中規模の集落の存在を想定する必要はなく、僅かな大型住居址を中心に数棟の中小住居址からなり、周辺で若干の畠作耕作と狩猟採取を行った山深い山積み集落というイメージが推定できる。

参考文献

甲元眞之　1986「農耕集落」『岩波講座　日本考古学』4、岩波書店、77-125

写　真　図　版

図版１　遺構・遺物の出土状況　－縄文時代－

Ｃ４区の遺物出土状況

Ｃ５区の遺物出土状況

Ｃ５区集石の出土状態

ＳＫ２　検出状況及び断面

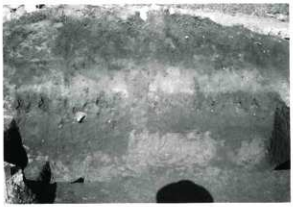
ＳＫ２　完掘状況

ＳＫ１　完掘状況

Ｃ５区付近の遺物・遺構の出土状況

Ｂ５区　埋型文土器出土状況(６図１)

試掘調査南壁



土層堆積　※中程やや白い部分アカホヤ

試掘調査区全景(東から)

石鹸形磨石と石皿の出土状況

遺物出土状態

礫器出土状態

磨石出土状態

押型文土器 9図67

押型文土器 9図76

押型文土器 9図64

押型文土器 10図86

押型文土器 9図53 表

押型文土器 9図53 裏

押型文土器 9図74

押型文土器 10図88

押型文土器 9図56

押型文土器 8図22

押型文土器 10図78

押型文土器 8図35

押型文土器 6図2 表

押型文土器 6図2 裏

押型文土器 6図4 表

押型文土器 6図4 裏

押型文土器 8図48

押型文土器 9図73

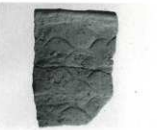
押型文土器 8図38

押型文土器 10図82

押型文土器 10図90

押型文土器 9図50 表

押型文土器 9図50 裏


押型文土器 6図6 表

押型文土器 6図6 裏

押型文土器 10図92 表

押型文土器 10図92 裏

押型文土器 9図71

押型文土器 10図80·79

押型文土器 7図13－1 表

押型文土器 7図13－1 裏

押型文土器 7図13－2

押型文土器 6図8 表

押型文土器 6図8 裏

押型文土器 9図65 表

押型文土器 9図65 裏

押型文土器 9図75

押型文土器 7図12

撚糸文土器 10図89

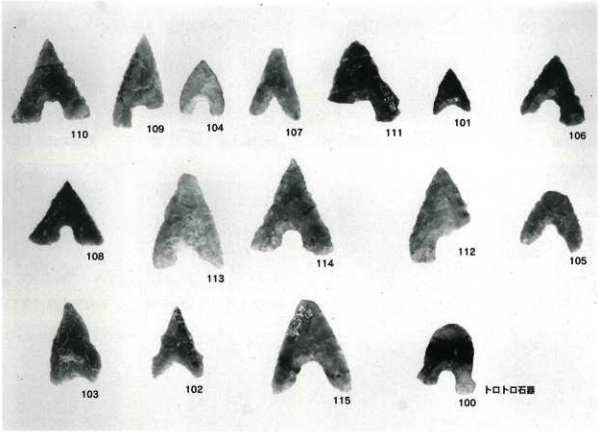
無紋土器 10図96

押型文土器 6図3

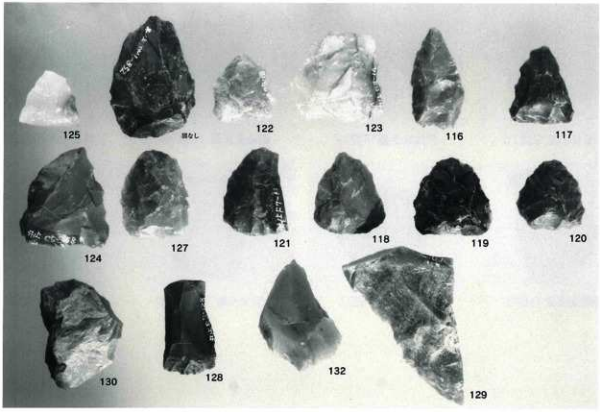
押型文土器 6図7

押型文土器 9図54 表

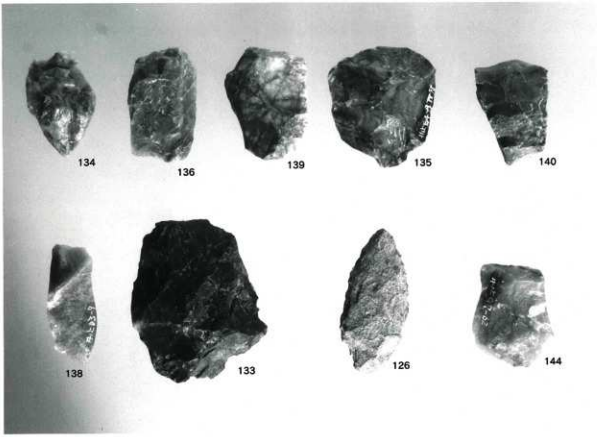
押型文土器 9図54 裏



石鏃とトロトロ石器



石鏃の未成品とスクレーパー類



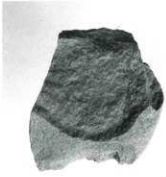
クサビ形石器・石槍・その他の剥片石器

礫器(204)

礫器(181)

礫器(182)

礫器(203)



礫器 (なし)

礫器(185)

石核(石材・チャート)(211)

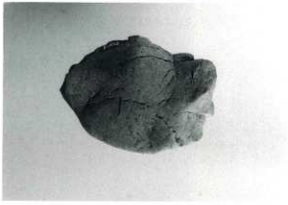
礫器(195)

礫器(202)

礫器(311)

礫器(188)

割石(210)



礫器(200)

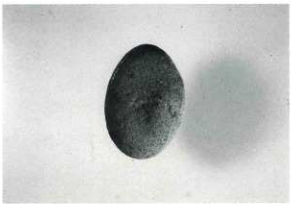
礫器(199)

割石(186)

割石(209)

石鹸形磨石(表面,157)

石鹸形磨石(側面,157)



凹石(172)

敲石(162)

礫器(201)

敲石(168)

敲石(170)

敲石(165)

敲石(164)

敲石(177)

礫器(184)

敲石(150)

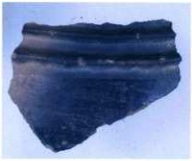
ＳＨ１　完掘状況

ＳＨ１　遺物出土状況
※やや黒色の遺物が磨製石鏃製作の関連遺物で石材はスレート（粘板岩）

ＳＨ１　出土の壺(42図215)

ＳＨ１　出土の高杯(42図223)

ＳＨ１出土の台石(50図308)



ＳＨ１　出土の壺(42図210)

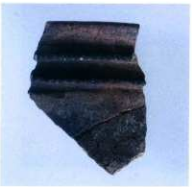
ＳＨ１出土の壺(42図218)

ＳＨ１　出土の甕(42図221)

ＳＨ１　出土の甕(42図231)

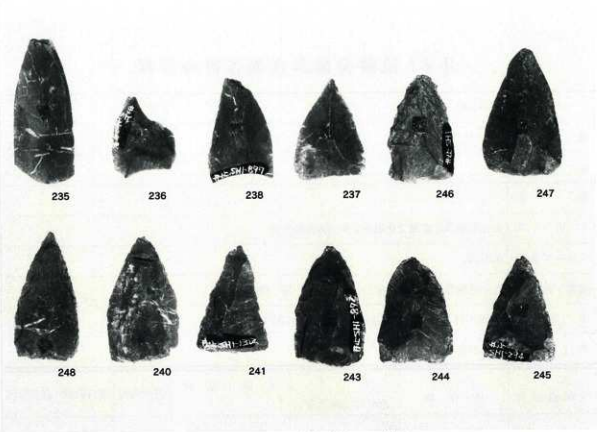
ＳＨ１　出土の甕(42図230)

ＳＨ１　出土の甕(42図229)

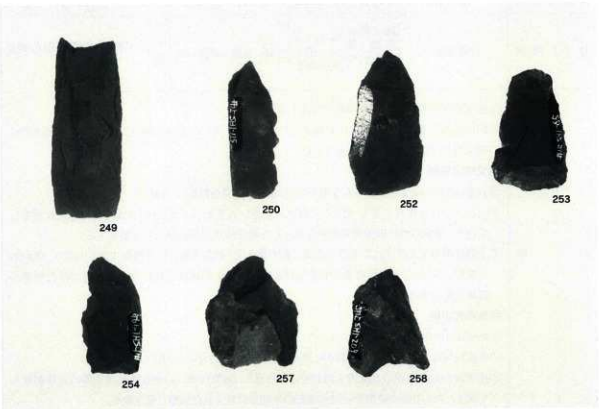


ＳＨ１　出土の甕(42図226)

ＳＨ１　出土の甕(42図232)



ＳＨ１から出土した磨製石鏃とその未成品



ＳＨ１から出土した磨製石鏃の未成品

井ノ上遺跡発掘調査報告書の抄録

ふりがな	いのうえいせき
書名	井ノ上遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第43集
編集・執筆者	大分県教育庁埋蔵文化財センター　綿貫俊一
所在地	〒870-1113　大分市大字中判田ビワノ門1977番地
発行年月日	平成21年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いのうえいせき 井ノ上遺跡	さいきしほんどういのうえ 佐伯市本匠井ノ上	205	41	32 56 36.67	131 44 0.05	2005.9.1 ～ 2005.11.4	830㎡ (試掘18.24㎡)	道路工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
井ノ上遺跡	包蔵地ほか	縄文時代早期・弥生時代中期	集石・土坑、竪穴式住居址	土器、石器、磨製石鏃	多量の礫器、磨製石鏃の製作址

要約

①縄文時代早期と弥生時代中期に形成された遺跡。

②約6,000年前に降下した火砕流起源のアカホヤの上面に住居址が掘りこまれ、下面の黒土層に縄文時代早期の遺物が存在していた。

縄文時代早期

③石器はチャートと呼ばれる石を用いて、石鏃やナイフを製作していた。

④石器の中には礫器や敲石・磨り石と呼ばれる重い石器が多く含まれ、重量を生かした作業をしていた。狩猟の他に堅果類採取を生業とした縄文時代早期の集落址と推定する。

⑤土器は押型文と呼ばれる文様を表面に施す例と全く紋様を施さない無紋土器からなり、底が尖る器形。こうした土器の特徴から紀元前6,000年～7,500年前後に営まれた縄文時代早期の遺跡と推定する。

弥生時代中期

⑥直径8mの大型住居址が見つかった。

⑦大型住居址からは磨製石鏃製作に関わる粘版岩の破片が1,300点も出土した。

⑧住居址からは地元の下城式土器と呼ばれる甕と、北部九州に広がる須玖式土器の高坏が並んで出土した。土器の特徴から紀元前250年前後に営まれた集落と推定する。

井ノ上遺跡

大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告　第43集

平成21年3月31日

編集・発行　大分県教育庁埋蔵文化財センター
〒870-1113　大分市大字中判田ビワノ門1977番地
TEL　097－597－5675
印　　刷　丸徳印刷株式会社
〒870-0911　大分市新貝4番50号
TEL　097－558－7737